

学校再編ニュース

《第9号》(平成25年6月10日発行)



《発行》小樽市教育委員会(適正配置担当)
電話 0134-32-4111(内線 533)
FAX 0134-33-6608
Eメール gakko-tekisei@city.otaru.lg.jp

～ 市民の皆さんの理解と協力により学校再編を進めています ～



高島小



潮見台小



桜小

『統合の会』

4月5日、3月末で閉校した祝津小、若竹小の統合校3校で開催した『統合の会』の様子を4ページで紹介しています。

今回は、3月11日以降に開催した色内小の学校再編に関する懇談会の状況や、4月に統合した祝津小と高島小、潮見台小と若竹小、若竹小と桜小の各統合協議会の経過、また、新しい学校づくりを進める潮見台小についてお知らせします。

学校再編ニュース及び懇談会の概要は、市のホームページに掲載しています。

小樽市 学校再編 で

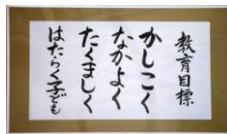
検索

新しい潮見台小が目指す教育

昨年4月に量徳小と統合し、今年4月に若竹小と統合した潮見台小について、早川紀美校長から話をお聞きました。

…みんなの願いを込めた教育目標…

量徳小、若竹小との統合を見据え、平成24年4月に新しい教育目標を制定しました。3校の保護者や子供たち、そして地域の皆さんの思いや願いを受け止めたもので、夢や目標に向かって努力する「はたらく子ども」を知・徳・体と関連させ、生きる力を育んでいくことを目指しています。今後も、教育目標の実現に向けた教育活動を進めていきます。



…3校の伝統と良さを生かして…

潮見台小は、量徳小、若竹小との統合で約100人の児童が増えました。3校の伝統と良さを生かした学校づくりを基本的な考え方として教育活動を実践しています。例えば、プール学習は全学年で実施することとしました。また、子供たちの学力向上のため、統合前から行っている放課後学習「まなびタイム」を継続して取り組んでいます。

…新しい学校づくりを目指した教育活動…

潮見台小では、「国語の潮見台」を目指して、教員の指導力を高めながら、子供たちに国語の基礎的な力を着実に身に付けてもらうため、分かりやすい授業づくりに取り組んでいます。また、職場体験や校区内の商店めぐり、歴史調べなど、学んだことが役に立つと実感できるキャリア教育を推進しています。そして、地域の皆さんとともに『地域の風が行きかう学校』にしていきたいですね。



潮見台小 早川校長

中央・山手地区の色内小の学校再編について、話し合っています

懇談会の開催状況 平成25年3月11日 色内小（保護者・地域）

昨年11月9日の懇談会及び12月17日の1、2年生保護者との懇談会で出された意見等を踏まえて、色内小の学校再編について懇談会を開催しました。

■ 教育委員会からの提案・説明内容 ■

■ 色内小校区を三つに分割して、稲穂4丁目・色内2丁目を稲穂小、稲穂5丁目（25～27番を除く）・色内3丁目を統合手宮小（高島・手宮地区）、長橋1・2丁目・稲穂5丁目25～27番を長橋小（塩谷・長橋地区）と、平成28年4月にそれぞれ統合する提案をしました。

◆ 参加された方からの意見など ◆

【保護者から】

◆ 小学校では6年間1学級で同年代の子供たちとの関わりが少なく、中学校に入ってから友達と慣れずに苦労することが多かったため、クラス替えができる学校規模が望ましいとの意見があり、教育委員会から、学校再編により各統合校で2学級以上の規模を想定している旨説明しました。



◆ 保育所でも学校再編について保護者の関心が高いが、外から見てみると話が進んでいない印象を持っている方も多い。統合となれば、これから考えることも多いので、早くしっかりとした道筋を決めてほしいとの意見や、手宮地区の保護者等とともに、新しい学校づくりに向け統合協議会で前向きに考えていきたいとの意見がありました。

◆ 子供の遊ぶ場所や、道路事情、冬の除雪、塩谷街道を含めた安全対策などが後回しになっていると感じており、より具体的話し合いに進んでもよいのではないかと意見がありました。教育委員会からは、今後、統合協議会で通学路の安全対策などの課題を話し合っていくが、市で検討する跡利用の問題も含めて、子供の遊ぶ場所も一つの課題と考えていきたい。統合までの3年間は大事な時間であり、それを有意義に使うため、次のステップに入りたい旨説明しました。

◆ 保護者や先生、地域の方の協力で行われている色内小でのパトロールやスクールゾーンの見守りなどが、統合校で継続されるようにしていきたいとの意見がありました。

【地域から】

◆ 少ない人数の中では人間関係が限定され、子供の成長を考えると、クラス替えのできる学校で多くの人とコミュニケーションをとれる方が良いとの意見がありました。

◆ 通学距離が延びても子供たちが安全・安心で通学できる方法を、学校や保護者、地域、行政など、大人全体で考えてほしいとの意見がありました。

◆ 色内小の良さをそれぞれの統合校で発揮できるように取り組んでほしい。また、手宮地区だけでなく、稲穂小や長橋小の子供たちにとっても、より良い教育環境が整えられるよう早く話し合いの時間をつくってほしいとの意見があり、それぞれの学校の良いところを統合校に引き継いでいけるよう、統合校で新しい学校づくりに向けた話し合いを進めていく考えである旨説明しました。

懇談会で、色内小の学校再編について、保護者や地域の方に御理解を頂いたことで、教育委員会では、統合校となる稲穂小、長橋小と統合に向けた懇談会を開催することとしました。

懇談会の開催状況

平成25年5月8日 長橋小（保護者・地域）

■ 教育委員会からの提案・説明内容 ■

- 平成28年4月に、長橋小と色内小（長橋1・2丁目、稲穂5丁目25～27番）を統合し、統合校の位置を長橋小とすること、今後、統合協議会を設置し、新しい学校づくりに向けた準備を行うことについて説明しました。

◆ 参加された保護者からの意見など ◆

【保護者から】

- ◆ これまで統合となった学校の教育目標や校名などの協議状況について質問があり、教育委員会から、統合校4校に係る統合協議会では、校名等の見直しについて議論し、花園小では地区内の統合が終わっていないため再度協議とすることとなったが、他の統合校においては従前の校名等をそのまま使用するという結論が出され、教育委員会もそれを尊重する形となった。また、教育目標については、新しい学校づくりの観点から、児童、保護者、地域の方にアンケートを実施するなど、皆さんの思いを受け止めながら、4校とも見直されたことを説明しました。
- ◆ 長橋小の卒業生は長橋中に進学するが、統合となる色内小校区の児童はどうなるかとの質問があり、教育委員会から、現在、色内小校区は西陵中校区となっているが、学校再編では小中学校の連携を視野に入れながら進めており、できるだけ一つの小学校から同じ中学校に進学するのが良いと考えていること、また、色内小の保護者から、統合により小学校の校区が三つに分かれるが、統合校の児童が同じ中学校に通学できないかとの意見もあり、統合までの間で、話し合いをしていきたいと考えている旨説明しました。



懇談会の開催状況

平成25年5月9日 稲穂小（保護者・地域）

■ 教育委員会からの提案・説明内容 ■

- 平成28年4月に、稲穂小と色内小（稲穂4丁目・色内2丁目）を統合し、統合校の位置を稲穂小とすること、今後、統合協議会を設置し、新しい学校づくりに向けた準備を行うことについて説明しました。

◆ 参加された保護者からの意見など ◆

【保護者から】

- ◆ 統合に当たっては子供たちの心のケアに十分配慮してほしいとの意見があり、教育委員会から、これまでの統合では、円滑な統合に向けて事前に児童交流を行っていること、統合後についても、先生が子供たちに細心の注意を払い、困っていることがないか把握に努めていること、また、スクールカウンセラーの派遣などを行っており、今後も十分に配慮していく旨説明しました。
- ◆ 今年の稲穂小1年生は73名で、3学級となるどころ2学級となった。統合時の平成28年には、2年生が3学級となり1年生と4年生もその可能性があるが、教室をどのように確保するかとの質問がありました。教育委員会から、今年の1年生の場合は、3学級相当の人数となることが判明したのが今年に入ってからであり、その段階で体育館棟1階のクラブハウスの転用を検討したが、1学級だけ別なフロアとなること、また、オープン形式の教室を確保するための改修が間に合わないことから、学校内での教育環境の均衡を図り、教育効果を確保するため2学級とした。統合に当たっては、色内小在校生の意向調査を行うなど児童数の把握に努め、学校と相談の上、内部改修により必要な教室を確保したいと考えている旨説明しました。
- ◆ 稲穂小の児童数は減少していないように見えるが、中央・山手地区の中学校3校を2校とする考え



方について質問があり、教育委員会から、この地区の中学校は、現在、菁園中は1学年3学級であるが、西陵中と松ヶ枝中は2学級となっている。出生数や長期的な傾向などを踏まえ、地区全体で中学校の学校規模を9学級以上とするためには、2校が適当であると考えている旨説明しました。

- ◆ 中学校の1学級当たりの人数を減らし、学級数を増やすことで学校再編を見直すことはできないかとの質問があり、教育委員会から、学級編制は法律等で定められており、教員もこれに基づき配置されている。学級数を増やしてもそれに見合った教員がいなければ、学校運営が難しい旨説明しました。
- ◆ 少子高齢化、若い世代の人口流出などにより、学校再編は仕方がないことと思うが、若い人が小樽に住み続けたい、子供たちが大きくなって小樽で子供を育てたいと思えるような施策を考えてほしいとの要望があり、人口増の取組として、市では企業誘致などを行っており、また、教育委員会としては、小樽の小学校や中学校で子供を学ばせるために、小樽に住みたいという方が増えるような学校づくりを行っていきたいと考えている旨説明しました。

【地域から】

- ◆ 稲穂小は、統合校としてそのまま残ると考えていたが、統合に際し、校名・校歌・校章の見直しなど新しい学校をつくるという考えなのかとの質問があり、教育委員会から、適正化基本計画に基づき学校再編を進めており、保護者や地域の代表等で構成する統合協議会を設置し、校名等の見直しを含め新しい学校づくりという観点で議論していただく旨説明しました。



これまでの懇談会で、色内小の学校再編について、関係校の保護者や地域の皆さんに御理解を頂いたことから、今後、三つの統合協議会を設置し、平成28年4月の統合に向けた準備を進めていきます。

高島・手宮地区 南小樽地区

◆潮見台小学校・若竹小学校統合協議会◆

第11回 平成25年3月12日

◇新しい学校づくりの取組◇

昨年4月の量徳小、今年4月の若竹小との統合を見据えた教育課程の編成を行ってきたが、今後も3校の伝統と良さを生かした教育活動を行っていくことが報告されました。

◆若竹小学校・桜小学校統合協議会◆

第5回 平成25年3月13日

◇新しい学校づくりの取組◇

保護者や地域の方へのアンケートを基に、統合後の新しい教育目標は「みんな なかよく げんきで かしい子」と決定されました。また、新学期は全学年でクラス替えることが報告されました。

◆祝津小学校・高島小学校統合協議会◆

第4回 平成25年3月25日

◇新学期からの見守り活動◇

バス通学となる祝津小校区の児童への声掛けや高島小校区での見守りなどについて、関係町会に協力を依頼し、今後とも、学校・保護者・地域で見守り活動をしていくことが確認されました。

☆ 統合協議会ニュースは市のホームページに掲載しています(各統合協議会とも最終回でした) ☆

『統合の会』を開催しました



↑ 高島小

平成25年4月5日に、祝津小の統合校である高島小で、若竹小の統合校である潮見台小、桜小で『統合の会』を開催しました。

会では、児童の代表が、これからの学校生活への決意を述べた後、高島小、桜小は新しい教育目標を発表し、潮見台小も昨年策定した教育目標を新しい友だちの前で披露しました。各統合校とも、4月から新たな学校としてスタートを切りました。



↑ 潮見台小

↑ 桜小

この後の状況は「学校再編ニュース(第10号)」でお知らせします